

2025年度 SSI（総探）

【第25回】 各自の研究活動

2026年2月5日（木）



これからの予定（各回のおおよその目標）

12月11日(木) 6限	リサーチクエスチョンの導出→明確化	
12月18日(木) 6限	仮説を立てる	概要説明
1月 8日(木) 6限	仮説を立てる	
1月29日(木) 6限	仮説の検証方法の検討	スライド準備
2月 5日(木) 6限	仮説の検証方法の検討	↓ 要項発表
2月12日(木) 6限	研究計画書の整理	スライドの完成
2月19日(木) 6限	中間発表の準備	リハーサル
2月26日(木) 5・6限	専門的課題研究中間発表会	

専門的課題研究中間発表会 (2/26)

今年度の課題研究の集大成！

次年度に向けて研究の質を高めよう！

1チーム 発表：5分 質疑応答：なし

発表内容

研究計画書
(1)-(4)部分

- 研究テーマの説明 分かりやすく！
- 研究背景（研究動機や先行研究）
- リサーチクエスチョン 明確に！
- 仮説と検証方法 論理的に！

高校46期 SS I・II (総合探究)		研究計画書兼報告書	
チーム番号		研究者氏名	
※チームメンバー全員の氏名を記入			
具体的な研究手法の計画・実施・まとめを記録するシートです。一つの研究計画の実施が終わったあとで、さらに新しい研究計画を実施する場合には、その都度、このシートに記入します。			
(1) 研究テーマ			
(2) 研究背景 (研究動機やテーマについての先行研究、一般的な理解など)			
(3) 研究目的			
①リサーチクエスチョン			
②リサーチクエスチョンの意義			
(4) 研究手法 (『課題研究メソッド2nd Ed.』p.73-95参照)			
①研究手法の種類 当てはまるものを選択			
☐ ①			
②具体的な			
※文献調査の場合 インタビュー の、③実施手順			

中間発表会教室割 (2/26)

教室	チーム数	発表チーム番号											
1組	10	A01	A02	A03	A04	A05	A06	A07	A08	A09	A10		
2組	12	B01	B02	B03	B04	B05	B06	B07	B08	B09	B10	B12	B14
3組	12	C01	C03	C04	C05	C06	C07	C08	C09	C10	C11	C12	C14
4組	12	D01	D02	D03	D04	D05	D06	D07	D08	D09	D10	D11	D12
5組	12	B11	B13	B15	C02	C13	E09	E10	F02	F09	G03	G08	G12
6組	12	E01	E02	E04	E05	E06	E07	E08	E11	E12	E13	E14	E15
7組	12	F01	F03	F04	F05	F06	F07	F08	F10	F11	F12	F13	F14
8組	12	G02	G04	G05	G06	G07	G09	G10	G11	I01	I02	I03	I04
物理	12	H02	H03	H04	H05	H06	H07	H08	H09	H10	H11	H12	H13
生物	12	J01	J02	J03	J04	J05	J06	J07	J08	J09	J10	J11	J12
情報	12	K01	K02	K03	K04	K05	K06	K07	K08	K09	E03	H01	H14

当日のタイムテーブル (2/26)

1チーム 発表: 5分 質疑応答: なし 入替: 2分

説明・準備	13:25-13:30		
発表Ⅰ	13:30-14:00	①13:30-13:35 ③13:46-13:51	②13:37-13:42 ④13:53-13:58
休憩・調整	14:00-14:05		
発表Ⅱ	14:05-14:35	⑤14:05-14:05 ⑦14:21-14:26	⑥14:12-14:17 ⑧14:28-14:33
休憩・調整	14:35-14:40		
発表Ⅲ	14:40-15:15	⑨14:40-14:45 ⑪14:56-15:01	⑩14:47-14:52 ⑫15:03-15:08
振り返り	15:10-		

相互評価・自己評価

相互評価(2/26実施)



【SS I】発表会相互評価フォーム

2025年2月26日(木)5-6限

SS I 専門的課題研究中間発表会

★こちらのフォームは《相互評価》用です。

他のチームの発表を評価
発表を聞きながら、評価をして、
発表が終わるごとに送信をする。

自己評価(～3/4)



【SS I】発表会自己評価フォーム

2025年2月26日(木)5-6限

SS I 専門的課題研究中間発表会

★こちらのフォームは《自己評価》用です。

自分のチームの発表を評価
発表会后、できれば当日中に
発表を振り返り送信をする。

今回の中間発表会の重点目標

観点/SSコンピテンシー	レベル4 (卓越している)	レベル3 (十分できている)	レベル2 (概ねできている)	レベル1 (改善を要する)
1. 構成の論理的一貫性 批判的思考力 表現力	目的から考察まで論理的に固く結びつき、一貫したストーリーを構成	全体の流れは明確だが、一部に論理の繋がりが弱い箇所がある	必要な要素は含むが、関係性の説明が不足し構成が断片的	各要素が点在し、論理的な構成がなく全体像を掴めない
2. 課題の背景と意義への理解 未知への好奇心 社会に関かれた姿勢	知的好奇心と社会背景が結びつき、多角的に考察できる	意義は説明できるが、自身の問いを明確に意識していない	意義の説明が抽象的で、なぜ自らが取り組むべきかが不明確	研究の意義や問題意識に至った背景が説明されていない
3. 問いと仮説の適切性 仮説構築力	先行研究に基き、独自の問いと仮説を構築し、検証可能な仮説を設定	先行研究と仮説には課題のつながりがあるが、検証が不明確	仮説が示すが手順の説明が曖昧で、誰でも実施できない	検証可能な仮説として具体化されず、研究の軸が不明確
4. 研究方法の妥当性 手続的知識 情報活用能力	最適な方法を比較検討し選択、手順を具体的かつ明確に説明	適した方法を選択できるが、選択理由の吟味が不十分	方法は示すが手順の説明が曖昧で、誰でも実施できない	方法が仮説検証に繋がらず、信頼できるデータを得られない
5. 結果の解釈と考察の妥当性 批判的思考力 メタ認知能力	複数視点で客観的に分析し、研究の課題と今後の展望まで言及	論理的な考察はできるが解釈が一面的で、課題の分析に至らず	結果の説明はできるが考察不足で、単なる結果報告に留まる	結果と意見が混同し、客観的事実に基づく考察がない
6. 発表の明瞭性 表現力	聞き手を常に意識し、言葉・声・視線まで工夫した対話的発表	流れは分かりやすいが表現が単調で、聞き手への工夫不足	原稿に沿って説明するが、聞き手を意識せず一方的	資料を読むのみで声量不足等もあり、内容が伝わらない
7. 視覚的表現のデザイン性 表現力 情報活用能力	図表・配色点を強調し、視覚的に分かりやすく伝える	図表・配色は基本的だが、視覚的な工夫が不十分	図表・配色は基本的だが、視覚的な工夫が不十分	文字中心の構成で視覚的工夫が少なく、理解を妨げている
8. 質疑応答における対話力 批判的思考力 協働する力	質問意図を汲み取り、客観的に捉え直し根拠をもって応答	質問を理解し考えを答えるが、データとの関連付けが弱い	質問意図を正確に理解できず、一般的な意見での回答に終始	感情的応答や「分かりません」のみで、対話を深めない

研究計画書(1)-(4)部分

プレゼンテーション技術

研究の
途中経過の
自己点検

発表
スキル
向上

2. 課題の背景と意義の理解

レベル4 (卓越している)	知的好奇心と社会背景が結びつき、 多角的根拠で意義を示す
レベル3 (十分できている)	意義は説明できるが、 自身の問題意識との繋がりが不十分
レベル2 (概ねできている)	意義の説明が抽象的で、 なぜ自分に取り組むのかが不明瞭
レベル1 (改善を要する)	研究の意義や問題意識に至った背景が 説明されていない



社会に開かれた姿勢



未知への好奇心

3. 問いと仮説の適切性

レベル4

(卓越している)

先行研究に基づき本質を捉えた
独創的で検証可能な仮説を設定

レベル3

(十分できている)

検証可能な仮説はあるが、
先行研究調査や独創性に課題あり

レベル2

(概ねできている)

仮説はあるが論理的根拠が弱く、
検証方法が不明確

レベル1

(改善を要する)

検証可能な仮説として具体化されず、
研究の軸が不明確



仮説構築力

6. 発表の明瞭性

レベル4 (卓越している)	聞き手を常に意識し、 言葉・声・視線まで工夫した対話的発表
レベル3 (十分できている)	流れは分かりやすいが表現が単調で、 聞き手への工夫不足
レベル2 (概ねできている)	原稿に沿って説明するが、 聞き手を意識せず一方的
レベル1 (改善を要する)	資料を読むのみで声量不足等もあり、 内容が伝わらない



表現力

7. 視覚的表現のデザイン性

レベル4

(卓越している)

図表・配色を緻密に設計し、
要点を強調して説得力を高める

レベル3

(十分できている)

図表を用いて整理されているが、
重要情報の強調が不十分

レベル2

(概ねできている)

図表はあるが配置や情報量の調整が
不適切で理解しにくい

レベル1

(改善を要する)

文字中心の構成で視覚的工夫がなく、
理解を妨げている



表現力



情報活用能力

発表準備 スライド作成・発表原稿準備

タイトルスライドを入れて**4**枚以上で作成。デザインは自由。

1

課題研究メソッド p.142-144 ①

プレ研究計画書兼報告書 (1) 研究テーマ

生成AIの社会的課題

テーマ

チーム番号: 920

全員の 組番号 + 氏名

チーム番号

メンバー

この3つを必ず入れる

研究テーマについて、**分かりやすく**説明する。

2

課題研究メソッド p.142-144 ③

プレ研究計画書兼報告書 (2) 研究背景

研究背景

- 初めて発表を聞く人に内容を理解してもらうために、背景となる現状や先行研究・事例を説明する。
- 発表で用いる言葉の意味や定義、現状を表すデータ、先行研究・事例を紹介する。
- これまでどのような取り組みや研究が行われ、何が分かっているのか、何がすでに解決されているのかなどを説明する。

リサーチエスションの背景や仮説の根拠となっている事実を述べる。

3

課題研究メソッド p.142-144 ④⑤

プレ研究計画書兼報告書 (3) ① リサーチエスション (3) ② リサーチエスションの整理

リサーチエスション

- 研究に取り組んだリサーチエスションの内容とそれが生じた背景を示し、研究の目的を示す。
- この研究で考えられる社会や学術への貢献、社会的な意義を述べることで、聴衆の注目をより集めることができる。
- プレゼンテーションの導入部分として、「この研究は必要だ」、「面白そうだ」というように興味をもってもらえるようにまとめる。

何がまだ答えの明らかになっていないことなのか、自分たちが何を解決したいのかを**明確に**説明する。

4

課題研究メソッド p.142-144 ④⑤

プレ研究計画書兼報告書 (3) ③ 仮説

仮説と検証方法

- リサーチエスションに対し、自分たちの設定した「仮説」(予想される仮の答え)をどのように設定したのかを説明する。
- 先行研究・事例から根拠を持って仮説を示すことが大事である。
- できるだけ複数の仮説を設定する。
- どのような研究方法を用いてリサーチエスションの解決に挑むのか、具体的に述べる。
具体的でない例: 「インターネットで調べる」、「アンケートを行う」

仮説の根拠を現在明らかになっている事実をもとに、**論理的に**説明する。

スライドチェックリスト + 支援Gem

SS I 専門的課題研究中間発表会 スライドチェックリスト

チーム 番号	確認	項目
本文		タイトルはその研究の内容を適切に表しているか？
		所属・名前が明記されているか？
		導入となる序論や研究背景が示されているか？
		一般的でない言葉や、意味や定義があいまいな言葉を説明しているか？
		リサーチクエスト（問い）は示されているか？
		仮説が根拠とともに示されているか？
		研究方法が具体的に示されているか？
		用いる研究方法是仮説の検証やリサーチクエストへの回答に適切か？
		引用文献・参考文献を各スライドに示したうえで、最後に正しくまとめているか？
		論理の流れがわかりやすいか？（ストーリーの一貫性）
		スライド1枚あたりの情報量は適切か？（詰め込みすぎでないか）
		発表の時間に対して、スライドの枚数や長さは適切か？
		不快な表現や差別的な表現が使われていないか？
		全体を通して何を伝えたいかが明確になっているか？
体裁		誤字・脱字がないか？
		フォントの種類が統一されているか？
		フォントの大きさは適切か（後方から見えるか）？
図や表		図や表の活用、デザインも含め、見やすいものになっているか？
		図や表に番号・キャプション（説明）をつけているか？
		グラフの縦軸、横軸に名前をつけているか？
		軸の単位が書かれているか？
		凡例（図の中で使用する記号の意味を説明するもの）が示されているか？
		図や表の説明が本文（口頭説明を想定したスライド内）でなされているか？
		引用先（出典）を明記しているか？

チェックリストの
各項目を1つずつ丁寧に確認しましょう！



【全般】発表スライド作成支援Gem

佐藤健悟・13:04

専門的課題研究中間発表会に向けてスライド作成を進めていると思います。
下記のチェックリストを確認しながら、研究発表にふさわしいスライドに仕上げていきましょう。

https://drive.google.com/file/d/176-MQU77Fdf0_5rr_DhHyxQCoZY5lNP/view?usp=drive_link

研究発表スライド作成支援
Gem



研究発表スライド作成支援

📁 ファイルをアップロード

📁 ドライブから追加

自分のチームのスライドを添付



🔧 ツール

思考モード



支援Gemを活用するうえでの心構え

【AIの特性：思考のパートナー】

- ❖ AIは「正解」を出す道具ではなく、**思考のパートナー**である。
- ❖ 研究の背景や込めた思いなど、見えない文脈はAIには読めない。
- ❖ 内容を最も深く理解しているのは、自分たちと指導の先生である。

【人間の役割：主体的なブラッシュアップ】

- ❖ AIの助言を鵜呑みにせず、最後は自分たちの責任で判断を下す。
- ❖ チェックリストは最低限であり、その先の質こそが重要である。
- ❖ 指導の先生に助言を仰ぎ、**自らの手で「納得の答え」を創り出す**。

「探究ノート」 活動記録①の記入

Classroom 「【全般】 探究ノート」

高校45期 SS I (総合探究)		探究ノート					
チーム番号		クラス	1 -	番号		氏名	
共同研究者							

↑ チームメンバー全員の組番号と氏名を記載（例：640 芝浦 太郎 40 柏 花子）

【日々の活動記録】（①を授業開始時に、②③を授業終了時に記入）

日付	活動記録 ①今日の予定・目標 ②本日の活動内容 ③次に行うこと、次までに行うこと
11/5	①今日の予定・目標 ②今日行ったこと ③次に行うこと、次までに行うこと
11/12	①今日の予定・目標 ②今日行ったこと ③次に行うこと、次までに行うこと
	①今日の予定・目標 ②今日行ったこと ③次に行うこと、次までに行うこと

（ 右クリック → + 下に行を挿入 を選択して行を追加してください ）

★作成のポイント★

毎回、**活動記録**は必ず書く！

①今日の予定・目標

授業開始時

②本日の活動内容

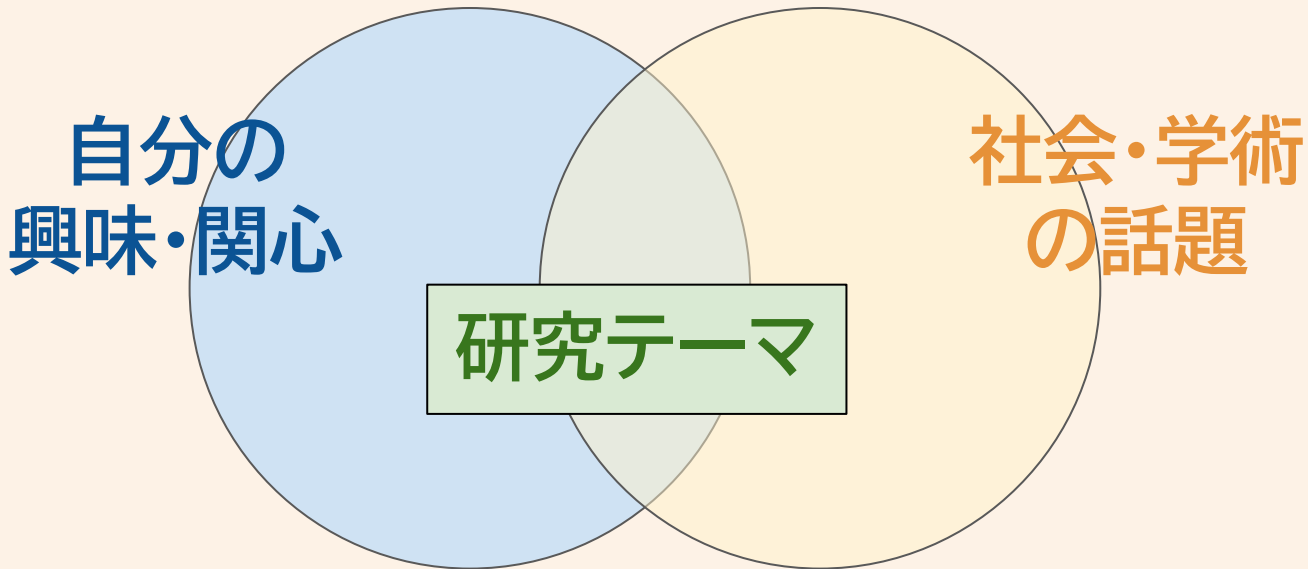
授業終了
5分前

③次に行うこと

個人でまとめるワークシートで、
その他の使い方は自由です。

【STEP1】 研究テーマ

- ★「何に焦点を当てて研究を行うか」を示すもの
- ★「〇〇について研究する」の「〇〇」に相当する部分

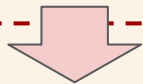
[illegible]

【STEP1】 テーマ設定のポイント

- ❑ 興味・関心との関連があるか？
- ❑ 社会的な課題もしくは学術分野との関連を見出せているか？
- ❑ 抽象的で広くとらえられるような言葉を具体的な文言に言い換えられているか？
- ❑ 研究テーマで取り上げた課題の現状について、客観的なデータを収集し、理解できているか？
- ❑ 社会科学系の研究の場合：
 - 関連する制度や法律、歴史的背景を理解しているか？
- ❑ 自然科学系の研究の場合：
 - 関連する原理や原則、理論(定理など)を理解しているか？

【STEP1】 先行研究を調べる

先人たちが行った研究の諸業績をふまえる。



先行研究

自分が行おうとしている
研究テーマと同じ分野で
先に発表されている研究



文献



インターネット



論文

(2) 先行研究を調べてみよう

☆ 参考になりそうな資料(論文・報告書・記事など)の書誌情報とリンクを貼っておこう！

[CiNii Articles]

主に日本で出版された学術論文や図書、雑誌に関する学術情報データベース。日本の大学の博士論文、大学図書館の収蔵図書についても検索ができる。日本(語)に特化した内容を調べる場合は、非常に有効である。

[Google Scholar]

学術専門誌や論文、書籍、要約など、さまざまな分野の学術資料を検索できるサービス。手軽に使用できるので、多くの研究者が利用している。対応言語も多い。

他に、特許も含めて検索できるJ-GLOBAL、様々な分野から検索できるJ-STAGE(J-STAGE)、また官公庁などが公表している報告書などがある。
いずれも、オンラインアクセスできる文献は限られているので注意すること。

- ① 書誌情報(作者・タイトル・書誌情報) ② リンク(参考にしたWebページのURLなど)
③ 上記の資料に書かれている内容について簡潔にまとめよう。

例	①書誌情報	剣持武彦 『夏目漱石『草枕』とロレンス・スターン『トリストラム・シャンディの生活と意見』』 『清泉女子大学紀要』
	②リンク	https://seisen.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=280&file_id=18&file_no=1
	③内容	イギリス留学を経た夏目漱石が英文学の知見を踏まえてどのような文学作品を創作したか。
1	①書誌情報	
	②リンク	
	③内容	

【STEP2】 問いとリサーチクエスチョン

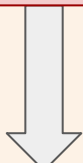
《 課題研究 》

まだ答えの分かっていない「**問い**」に取り組む。

研究テーマ



問い



発展

リサーチクエスチョン

何に焦点を当てて研究を行うかを示すもの

漠然とした疑問を疑問文の形で表したもの

解決すべき本質的な問い(≡ issue)

研究全体で明らかにしたいこと

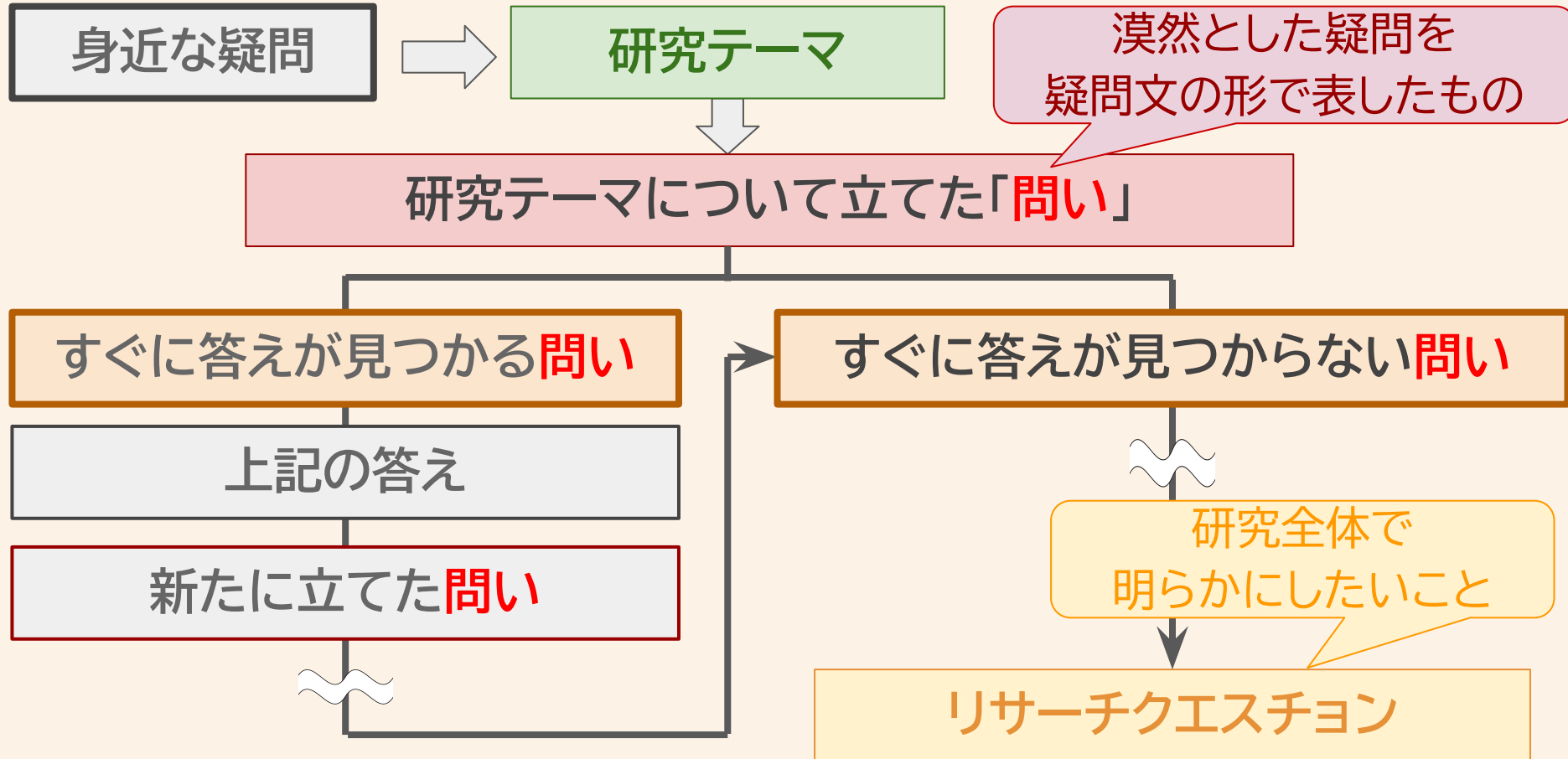
【STEP2】 問いを立てる

問いの種類	問い
言葉の意味や定義を問う「問い」	〇〇の意味は？ 〇〇の定義は？
原因(なぜ)を問う「問い」	なぜ〇〇は生じているのか？
信憑性を問う「問い」	〇〇は本当に生じているのか？
比較を行う「問い」	● 過去にくらべて、〇〇はどのように変化しているのか？ ● 〇〇はどの程度進んでいるのか？ ● 他国ではどれくらい〇〇が進んでいるのか？ ● ほかの物質や異なる条件ではどのようなになるのか？

【STEP2】 問いを立てる

問いの種類	問い
先行研究・先行事例を問う「問い」	● ○○に対して、どのような取り組み、研究が行われてきたのか？
影響を問う「問い」	● ○○によって、どのようなことが起こるのか？
方法や関連性を問う「問い」	● ○○と△△にはどのような関連があるのか？ ● どのようにして○○を行う(○○は行われている)のか？

【STEP2】 「問い」を発展させる



【STEP2】 リサーチクエスチョンの導出

リサーチクエスチョン

「課題研究全体で
明らかにしていきたい問い」

「問い」を多面的に検証し、
分解してみよう！

リサーチクエスチョンとして
適切かどうかを検証！

(4) 先行研究を踏まえて、立てた問いからリサーチクエスチョンを導出してみよう！

★「リサーチクエスチョン」とは → 「問い」の発展：「課題研究全体で明らかにしていきたい問い」
「すぐに解決できる問い」ではなく、
仮説を立てて、それを検証していくことで明らかにしていくような問いである。
→ 「問い」を多面的に検証し、分解してみよう！

【研究テーマの検証・先行研究調査のポイント】

- ☐ 興味・関心との関連があるか？
- ☐ 社会的な課題もしくは学術分野との関連が見込めているか？
- ☐ 抽象的で広くとらえられるような言葉を具体的な文言に言い換えられているか？
- ☐ 研究テーマで取り上げた課題の現状について、客観的なデータを収集し、理解できているか？
- ☐ 社会科学系：関連する生徒や法律、歴史的背景を理解しているか？
- ☐ 自然科学系：関連する原理や原則、理論(定理など)を理解しているか？

【リサーチクエスチョン検証のポイント】

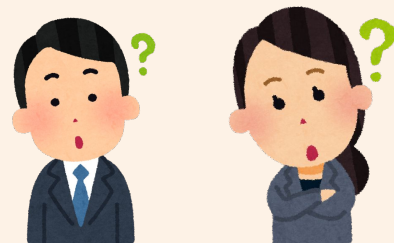
- ☐ リサーチクエスチョンに用いられている言葉の意味や定義を理解しているか？
- ☐ ある問いの答えに対して新たに問いを立てることで、問いを発展させられているか？
- ☐ 先行研究や事例から、そのリサーチクエスチョンに取り組む意義を見出せているか？
- ☐ 「いつ」「どこ」「だれ」など、多面的に検証してリサーチクエスチョンを具体化できているか？
- ☐ 関連する学術分野は何か？
- ☐ 答えがすぐに見つかるリサーチクエスチョンになっていないか？(現状の調べ学習で完結するものになっていないか？)
- ☐ 研究を進めるためには何が必要か？それは準備可能か？
- ☐ 取り組みが可能なリサーチクエスチョンか？

【リサーチクエスチョンの候補】

探究ノート(4)

【STEP2】 リサーチクエスチョンの導出

- ❑ リサーチクエスチョンに用いられている言葉の意味や定義を理解しているか？
- ❑ ある問いの答えに対して新たに問いを立てることで、**問いを発展**させられているか？
- ❑ 先行研究や事例から、そのリサーチクエスチョンに**取り組む意義**を見出せているか？
- ❑ 「いつ」「どこ」「だれ」など、多面的に検証して**リサーチクエスチョンを具体化**できているか？
- ❑ 関連する学術分野は何か？
- ❑ 答えがすぐに見つかるリサーチクエスチョンになっていないか？
- ❑ 研究を進めるためには何が必要か？それは準備可能か？
- ❑ 取り組みが可能なリサーチクエスチョンか？



【STEP3】 仮説を立てる

仮説思考

先行研究調査が大事！

直面する課題に対して、明らかにになっている事柄に基づいて、
最初に「**仮説**」(仮の答え)を立て、
その仮説を**検証・修正**しながら問題解決を図る思考方法

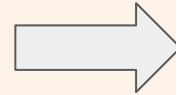
仮説の設定

明らかにになっている
事柄から確からしい
仮説を立てる段階



仮説の検証

調査・実験に基づき、
仮説の正誤を
確認する段階



仮説の修正

仮説に誤りがあると
判明した場合に
それを修正する段階

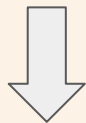
【STEP4】 適切な研究方法を選ぶ

文献調査 (★必須★)	どの研究においても必須。 単なる調べ学習に終わらぬよう、文献を批判的に読むことを心がけよう。
アンケート調査	目的を明示したうえで、得られる結果を想定しつつ、読み手にどう伝わるかを踏まえて綿密に練ろう。
インタビュー調査	事前に質問事項を練って、必要な情報を得られるようにしよう。アポを取る際には失礼のないように。
現地調査	長期休みなどを利用して事前に計画を立てて実施しよう。
シミュレーション	主に自然科学分野で行われる。 コンピュータを利用したシミュレーションで実験の代替が可能かどうか考えてみよう。

【STEP2-4】 これまでの内容を整理

研究全体で明らかにしたいこと

リサーチクエスチョン



仮説立案



仮説の検証方法の考察

探究ノート(5)

リサーチクエスチョン	
仮説①	仮説②
仮説を立てた根拠①	仮説を立てた根拠②
仮説を検証する方法①	仮説を検証する方法②

【中間目標】

「研究計画」をまとめる

整理してまとめていこう！

第9845期 SS I (総合探究)		研究計画書兼報告書	
チーム番号		研究者氏名	
※チームメンバー全員の氏名を記入			
具体的な研究手法の計画・実施・まとめを記録するシートです。一つの研究計画の実施が終わったあとで、さらに新しい研究計画を実施する場合には、その都度、このシートに記入します。			
(1) 研究テーマ			
(2) 研究背景			
研究計画書 (1)-(4)部分			
(3) 研究目的			
①リサーチエスジョン			
②リサーチエスジョン			
③リサーチエスジョン			
④リサーチエスジョン			

高学年5人組
SS1 (総合探究)

探究ノート

(1) 研究テーマを決めよう！

【仮テーマ】（チーム編成時に考えていた「メンバーの研究したいことの共通項」）

【仮テーマから連想されるキーワード】 ※Wiki辞書などで調べていこう！

【マンガダート】 仮テーマを中央に、仮テーマから連

探究ノート

探究ノート

う！
ご考えていた「メンバーの研究したいことの共通項」

【キーワード】 ※Wiki辞書などで調べていこう！

連想されるキーワードのうち8個をその周囲の色付きのマスに

1人1ファイル(個別編集)

【Step5-6】研究結果 → 考察・結論

自分たちのリサーチクエスチョンに対し、研究を通して得られた結論をまとめる。

(5) 研究結果

文献調査・インタビュー・アンケートの結果得られた事実の要約・整理

(6) 考察・結論

(5)の事実をもとに、それを解釈し、何が分かった・分からなかったのかを述べる。

(5) 研究結果
(研究方法を実施した結果得られた定量的データ、定性的データをまとめます)

(6) 考察・結論
(研究結果のデータに、考察・分析をくわえ、リサーチクエスチョンに照らして、分かったことや分からなかったことをまとめます。)

(7) 今後の展望
(今回の研究計画に、今後の研究計画について述べます)

研究報告書
(5)(6)部分

【Step7】今後の展望

今回の研究計画による結論をふまえ、
今後の展望を述べる。

○ リサーチクエストンに対して 一定の結論が得られたチーム

→ 次に明らかにしたい
新たなリサーチクエストンを導出

● リサーチクエストンに対して 一定の結論が得られなかったチーム

→ 仮説検証の方針の再考
リサーチクエストンの再設定

(5) 研究結果

(研究手法を実施した結果得られた定量的データ、定性的データをまとめます)

(6) 考察・結論

(研究結果のデータに、考察・分析をくわえ、リサーチクエストンに照らして、分かったことや分らなかったことをまとめます。)

研究報告書
(7)部分

(7) 今後の展望

(今回の研究計画による結論をふまえ、次に明らかにしたい新たなリサーチクエストンや、次に行いたい研究内容を書きます)